



Lofty Elegance : Ink Painting from Medieval Japan
 清雅なる情景
 日本中世の水墨画



2013年 9月11日(水) — 10月20日(日)
 【休館日】 月曜日、月曜が祝日の場合は開館し、翌日休館

右：重要文化財 江天遠意図（部分） 伝周文筆 大岳周崇ほか11僧賛 1幅
 室町時代 15世紀
 中：重要文化財 観瀑図（部分） 芸阿弥筆 月翁周鏡ほか2僧賛 1幅
 室町時代 文明12年（1480）
 左：重要文化財 山水図（部分） 賢江祥啓筆 1幅 室町時代 15世紀

この秋、根津美術館では、コレクション展「清雅なる情景 日本中世の水墨画」を開催いたします。

墨は、その濃度によって無限の諧調を生み、また「ぼかし」や「かすれ」など多彩な表情を持つ素材です。そして、そんな墨の高い表現性能を存分に活かして描かれるのが水墨画です。唐時代の中国で、三次元空間のリアリティックな描写をめざす山水画の技法として誕生し、まもなく人物画や花鳥画においても採用されるようになりました。

水墨画はやがて、日本にもたらされます。そこで大きな役割を果たしたのが、鎌倉時代以降、日中間で僧侶や文物の往来が盛んに行われた禅宗です。しかもその禅宗が文芸や政治と結びついたこともあり、水墨画は、絵画上のテクニクという以上の大きなインパクトを中世の文化に与えました。

このたびの展覧会は、重要文化財4件、重要美術品8件をふくむ総数約50件の作品によって、14世紀後半から16世紀におよぶ日本中世の水墨画の展開を眺め、その多彩な魅力をご紹介します。水墨を用いて描きだされた清らかな観音図にはじまり、理想の風景を描いた山水画、禅味あふれる人物画、水墨の技法をベースに華やかな彩色を加えた花鳥画まで、充実のコレクションをご覧いただけます。水墨画が描かれ鑑賞された場の雰囲気を生き生きと伝える詩画軸の名品や、師から弟子への画風の伝授を目の当たりにさせる作品など、見所満載です。

館蔵の中世水墨画をまとめて展観するのは12年ぶりとなります。また、今回は特別に、中国・元時代の禅宗人物画の傑作、国宝「布袋蔣摩訶問答図」（因陀羅筆・楚石梵琦賛）も展示いたします。

師から弟子へ、
画風伝授が一目瞭然

重要文化財 観瀑図

芸阿弥筆 月翁周鏡ほか2僧賛 1幅
室町時代 文明12年(1480)
根津美術館蔵

文人高士が理想の対象とした瀧を描く。足利將軍家に仕えた芸阿弥による現存唯一の作品で、端正な筆致と緊密な構図は、中国南宋の画家・夏珪の画風にもとづく。画面上部の賛から、帰郷する弟子・祥啓に与えられたものであることが判明する。



重要文化財 山水図

賢江祥啓筆 1幅
室町時代 15世紀
根津美術館蔵

祥啓は鎌倉建長寺の画僧。上洛し、將軍家に仕えていた芸阿弥に学んだ。整然とした筆法や周到な構成が、帰郷に際して芸阿弥から与えられた、やはり本展出品の作品「観瀑図」と似ており、師の画風を忠実に学んだことがよくわかる。



聖なる境地

重要美術品 白衣観音図

赤脚子筆 1幅
室町時代 15世紀
小林中氏寄贈 根津美術館蔵

白衣をまとい、山中の波打ち寄せる岩上でつるぐ観音。格式張らない観音の姿は、禅宗教団で好まれた。墨のグラデーシオンが、光背の透明感を演出する。赤脚子は、京都東福寺に関わりのある画僧と考えられている。

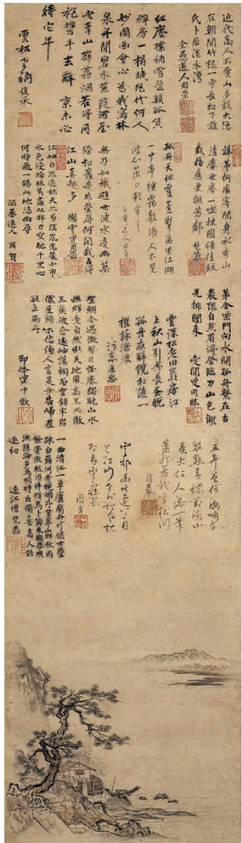


禅林の文芸と絵画

重要文化財 江天遠意図

伝周文筆
大岳周崇ほか11僧賛 1幅
室町時代 15世紀
根津美術館蔵

水面を介して近景と遠景を対角線上に配する構図は、中国南宋の山水画に学んだもの。画面上方には、十二人の禅僧による隠逸への想いにあふれた詩が書される。禅林の文芸サロから生み出された詩画軸の典型である。



根津美術館の
中世水墨画コレクション

中世水墨画は、根津美術館の絵画コレクションの重要な柱のひとつである。時代的には14世紀後半から16世紀までをほぼ完全にカバーし、そのラインナップも東福寺の明兆や赤脚子、相国寺の周文とその系譜、大徳寺の曾我派や小栗派、足利將軍家に同朋衆として仕えた阿弥派の芸阿弥、祥啓や雪村などの関東水墨画、雪舟とその門流、さらには初期狩野派というように、主要な画家や画系を網羅している。こうしたコレクションの充実は、初代根津嘉一郎の蒐集に加え、小林中氏や茂木克己氏からの作品寄贈によるところも大きい。

水墨がとらえた生命の温もり



牡丹猫図
牡丹三筆 1幅
室町時代
16世紀
根津美術館蔵

白い牡丹の花の下、猫がみつめるのは一匹の蝶。墨のぼかしと細かい描線で、猫の柔らかい毛並みが見事に表現されている。大きめの寸法から、もともと禅寺で用いる座屏(衝立)に貼られていた可能性がある。

特別出品

国宝 布袋蔣摩訶問答図
因陀羅筆 楚石梵琦賛
中国・元時代 14世紀
根津美術館蔵

布袋と親孝行の蔣摩訶が問答する様を描いた、禅機図と呼ばれる作品。ぎこちない線描と濃墨を組み合わせた特異な画風を示すが、人物の表情の捉え方は非凡である。因陀羅はインド僧ともいわれる伝記不明の画家。



〈そのほかの出品作品〉

- 重要美術品 山水図 高先景照賛 1幅 室町時代 15世紀 室町時代 茂木克己氏寄贈
- 重要文化財 破墨山水図 拙宗等揚筆 1幅 室町時代 15世紀 室町時代 大永3年(1523)
- 重要美術品 山水図 曾我紹仙筆 月舟寿桂序および賛 1幅 室町時代 16世紀 室町時代 16世紀
- 重要美術品 周茂叔愛蓮図 伝小栗宗湛筆 1幅 室町時代 16世紀

ほか 総数約50件

同時開催

展示室5 「刀装具の花鳥風月」

コレクションから選りすぐった刀装具、約40点を展示いたします。武士の象徴である太刀や刀を飾った拵(こしらえ)にみる、日本の花鳥風月や文学、宗教的逸話などを主題とした風雅な世界をご覧ください。



雁稲穂蒔絵大小拵
江戸(明治)時代 19世紀 1対
根津美術館蔵

末広がり(はらば)の鞘(さや)と蒔絵(まきゑ)のデザインの大胆さがあいまって、奇抜な印象の大小拵(こしらえ)である。大刀には豊かに穂(ほ)をつけた稲(いな)を、小刀には羽(は)を広げた雁(かり)を金蒔絵(まきゑ)であらわす。秋の豊穰(とよこぼ)さを大らかに表現した作品。



牡丹に蝶図鏝(かき) 加納夏雄(かののなつお)作
江戸(明治)時代 19世紀 1枚
根津美術館蔵

鉄地(てつち)に牡丹(ぼたん)の花を大胆に据え、花芯(はなご)を独特の立体感(ていたいかん)のある彫り(うで)と金象嵌(きんざうがん)であらわした加納夏雄(かののなつお)の傑作(たっさく)。牡丹(ぼたん)の花が香り立つ(かほりたつ)ようである。夏雄(なつお)は幕末(幕末)の三名工(ななな)の一人(ひとり)であり、維新後(いしんご)は帝室技芸員(ていしつぎげいん)となった。

展示室6 「夜長月の茶」

夜長月(よながつき)とは旧暦(きうれき)9月のことで、徐々に夜が長くなる頃(ころ)です。「一夜(ひとよ)」と名付(なづ)けられた茶入(ちやいり)や、秋草(あきくさ)蒔絵(まきゑ)の棗(ざう)、菊花文(きくげ)の茶碗(ちawan)など、秋の景物(きよぶつ)を楽しむ茶道具(ちやどうぐ)を約20点取り合せ(と)ります。



利休瀨戸茶入
銘一夜(よ) 瀨戸(せと) 桃山時代(ぼしやん) 16世紀
根津美術館蔵

利休瀨戸(りきゆうせと)は、筒形(つつがた)で、胴(たね)に轆轤目(ろくろめ)や篋目(かぶ)のある姿(すがた)を特徴(ていしつ)とする。この「一夜(ひとよ)」は流れる釉(ゆう)の景色(けいせき)が見事(みごと)な茶入(ちやいり)で、銘(な)の由来(ゆらい)は形(かたち)が枕(まくら)に似(に)ているため(ため)と考え(と)えられている。



安南染付(あんなんぞめつけ)菊唐草文(きくからくさ)茶碗(ちawan)
銘童子(ななご) ヴェトナム(ベトナム) 15世紀
根津美術館蔵

ヴェトナム(ベトナム)で焼(や)かれた陶磁器(たうじ)は安南(あんなん)と称(な)される。これは、胴(たね)の三方(さんぱう)に菊花(きくげ)を配(と)いその間に唐草文(からくさ)をのびやかに描(え)いた愛らしい茶碗(ちawan)。江戸時代(えど)初め(はじめ)に将來(しょうらい)したと伝(つ)わる。

ー関連プログラムー

■講演会1 「室町水墨の世界」

日時 9月14日(土) 14時-15時30分
講師 島尾新氏 学習院大学教授

■講演会2 「室町水墨画の西と東」

日時 9月28日(土) 14時-15時30分
講師 相澤正彦氏 成城大学教授

■講演会3 「彫金の技をみる」

日時 10月19日(土) 14時-15時30分
講師 桂盛仁氏 (重要無形文化財保持者 彫金)

※講演会会場はいずれも根津美術館 講堂 定員 130名

(申し込み方法)

往復はがきに、参加を希望されるプログラム名(「講演会1」、「講演会2」、「講演会3」と住所・氏名(返信面にも)・電話番号を明記の上、

〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1 根津美術館「日本中世の水墨画」展 講演会係宛にお申込みください。

講演会1は 8月31日(土)、講演会2は 9月14日(土)、「講演会3」は 10月5日(土) 締切(当日消印有効)。

*参加希望者1名につき1枚の往復はがきでお申込みください。

■「清雅なる情景」展 スライド・レクチャー

日時 9月27日(金)、10月4日(金) いずれも午後1時30分
より約60分間

*会場 根津美術館 講堂 定員 130名

*事前申し込みは不要。各回とも開始の15分前より会場入口で受け付けます。定員になり次第受付終了となります。

※講演会、スライドレクチャーとも参加は無料ですが、入館料をお支払いください。

【開催概要】

コレクション展「清雅なる情景 日本中世の水墨画」
根津美術館

2013年 9月11日(水)～10月20日(日)

午前10時～午後5時 「入館は午後4時30分まで」

月曜日、月曜日が祝日の場合は開館し、翌日休館。

一般1000円(800円) 学生800円(600円)

* ()内は20名以上の団体料金 中学生以下無料

一般900円 学生700円

*2013年7月27日(土)～9月1日(日)

「曼荼羅展 ―宇宙は神仏で充滿する!」展開催期間中、
根津美術館ミュージアムショップにて販売

地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道) 駅下車

A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエス

カレータ)より徒歩10分、B3出口(エレベータまたは

エスカレーター)より徒歩10分

〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1

TEL 03-3400-2536 (代表)

http://www.nezu-muse.or.jp (日本語・English)

http://www.nezu-muse-app.jp (日本語・English)

*携帯サイトは、機種により閲覧できない画面があります。

「App Store」・「Google play」から根津美術館を検索し

てダウンロード

次回展のご案内

特別展

井戸茶碗 ―戦国武将が憧れたうつわ―

2013年 11月2日(土)ー12月15日(日)

佗び茶の最高峰となった、朝鮮半島で焼かれた井戸茶碗の魅力をご覧ください。



<リリース・広報のお問い合わせ>

担当： 所 / 村岡 / 羽田

TEL: 03-3400-2538 広報 (直)

FAX: 03-3400-2436

MAIL: press@nezu-muse.or.jp